

房総の文化財

— 創刊号 —

平成4年9月1日

財団法人 千葉県文化財センター

千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850



▲木更津市芝野遺跡

県内最古の水田

木更津市^{しもとうだ}下望陀で今から約1900年前の弥生時代後期の水田跡が発見されました。当地の字名から「芝野遺跡」と名づけられました。水田は^{おひつ}小櫃川のすぐ北側につくられており、現在の水田のように整然と区画はされていません。大中小さまざまな区画の水田が地形に合わせて扇形にひろがっています。^{あぜ}畦道や水路、^{みづな}水溜めをつくるなど当時の人々の工夫の跡がみられます。水田のそばには、^{つぼ}壺や^{かま}甕と

いった当時の生活用具が一行に並んで出土しています。人々が水田に向かって豊作を祈ったものでしょうか。

木更津市は東京湾に面して東海地方との交流がさかんであったことから、西方の稲作文化をいち早くとり入れたと思われます。周辺にも水田はひろがっており、すでに弥生時代のこの地域では、広い範囲で水田耕作を行っていたことがうかがわれます。(加藤修司)

発刊に当たって



千葉県は、自然環境にも恵まれ、数多くの貴重な埋蔵文化財が残されています。その反面、全国でも有数な大規模開発が推進されている県でもあり、それに伴って、毎年多くの遺跡の発掘調査が実施されています。

当文化財センターは、国や県等の公共事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を主な業務として、昭和49年11月に県教育委員会の認可を得て財団法人として発足しました。以来、2,000か所近くの遺跡を調査し、その成果は、私たち祖先の歴史を知るうえで、大きな役割を果たしているものと自負しております。

ところで、当文化財センターも設立以来20

財団法人千葉県文化財センター
理事長 奥山 浩
(千葉県教育委員会教育長)

年になろうとしています。この間の調査活動とその学問的成果に比して、業務内容等については、いまだ、一般県民に広く周知されていないのが現状であります。

このため、本年度からは、これまで以上に埋蔵文化財普及事業を充実させるべく各種の活動・行事等を予定しておりますが、その一環として、当文化財センターの業務内容や埋蔵文化財保護の重要性を多くの皆様方により深くご理解いただけるよう広報紙『房総の文化財』を発刊することにいたしました。

この広報紙は、広く県民の皆様方に御利用していただけるよう多くの方々の御協力を得て、より充実した内容にしていきたいと考えております。今後とも御指導と御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

千葉県教育庁生涯学習部
文化課長 白石 竹雄

貴重な発掘調査が相次ぎ、新たな考古学ブームを呈している感もあります。折しも週休2日制が論議され、生涯学習時代が到来しつつあります。この時期、文化財センターから広報紙が発行されることは、誠にタイムリーな企画といえましょう。

この広報紙は、埋蔵文化財保護の大切さを普及することを目的として、最新の考古学や文化財センターの業務等埋蔵文化財に関するさまざまな情報を公開するためのものです。

多くの方々が、遺跡の現地探訪の手掛かりとして、また、考古学情報を知る資料としてこの広報紙を有効に活用されることを願ってやみません。さらに、これを機会として郷土の歴史を知ることが生涯学習の一つとされれば望外の喜びとするところです。

O Bの方々の声

知的世界へのいざない

元専務理事 鈴木 武次
文化財センターができて約20年。広報紙の創刊は、まことに時宜をえた企画です。

緑の下の力持ちみたいな文化財センターの仕事の内容を広く知ってもらい、またその仕事の成果である調査・研究の結果や、出土した“もの”の情報を、紙面でわかりやすく解説し提供する。そして、いろいろな時代について、地域のかたがたに、郷土の変化を考えてもらい、知的世界への探求へと、いざなうてだてとなることを期待しています。

追憶一法人の誕生に奔走したころー

元庶務課長 田中 久美
怖いもの知らずとはこんなことかもしれない。寄附行為という言葉の意味さえもわからぬ者が、財団法人の設立という特命で異動を命ぜられたのは、昭和48年度末のことであり、いま当時を回想し誠に汗顔のいたりである。

そして各方面の指導を仰ぎながら、やっとのことで設立認可がおりたのは昭和49年11月1日であり、あれからすでに18年も経過し、成熟した現在の文化財センターの偉容を目の当りにし、諸処追憶しながら感一入である。

現地説明会の推進策を

元調査班長 杉山 晋作
先日の踏査の折、現地で尋ねた農作業中の人は、私も文化財の仕事をしているからと親切に教えてくださった。こういうことは時々あって、これも寒暑のなかを現場に立つ人達の和があってこそのおかげと思う。次は調査に直接携わらない人々への広報だろう。たとえば調査途中であっても、毎週のように現地説明会案内が新聞に出る近畿と較べて関東はまだ少ない。隠密裡に行動した二昔前とは隔世の感がする新たな広報活動の開始を喜びたい。

創刊号によせて

元常務理事 植松 震
埋蔵文化財が全国一の宝庫と言われる本県において、昭和49年11月、開発に伴う遺跡の調査と研究事業を実施する機関として、全国に魅け千葉県文化財センターが設立されて18年、以来数多くの調査と有意義な研究が行われ、益々この事業が重要視されておりますことは、当センターの設立に携わった一人として誠に感無量であります。今後とも、関係各位の御尽力により、本県文化財保護思想の普及に努められますよう祈念してやみません。

県民の考古学をめざして

元調査部長(現当センター理事) 西野 元
「モノがザクザク出るといった」初めて発掘に参加した若い人の感想である。

新聞やテレビを発掘調査のニュースが賑わすようになったことは、考古学が市民権を得た証しでもあろうが、一方で「ロマンの考古学」ともいような誤解も生まれた。

華やかな報道の背景にある調査研究者の姿や歴史を解明する道程などを人々に伝え、そこから埋蔵文化財を大切にしたい心が芽生えるような広報となることを望んでやまない。

広報紙の刊行に寄せて

元調査班長 種田 斉吾
現在、中学校に勤務し、授業では社会科を担当しております。歴史的分野の学習では、生徒に「歴史に対する興味や関心を高める」ことが重視されており、さまざまな資料を積極的に活用することが大切になっています。広報紙の「埋蔵文化財アラカルト」などは、ファイルして授業でも使っていける、わかりやすい興味あるシリーズをお願い致します。

最後になりますが、文化財センターのますますの充実発展をお祈りいたします。

発刊に寄せて

千葉県では、全国に先駆けて埋蔵文化財の発掘調査を主な業務とする財団法人千葉県文化財センターを昭和49年11月1日に設立しました。文化財センターは設立以来各種開発に係る発掘調査を数多く実施し、その成果は県内外から高い評価を得ているところであります。また、県民の皆様に対する文化財普及事業の一環として、最新の調査成果を踏まえた『房総考古学ライブラリー』を時代順に刊行するとともに、発掘現場における現地説明会等を実施するなど、ややもすると難解になりがちな文化財を身近なものとするよう努めていただいているところであります。

近年邪馬台国論争に一石を投じた佐賀県吉野ヶ里遺跡、大陸の影響が強く認められる武具・馬具等の出土した奈良県藤ノ木古墳など

千葉県文化財センターとはどんなところでしょう

1. どのような事業をしているか

遺跡等埋蔵文化財の調査研究及び文化財保護思想のかん養と普及などを図るために、次の4つの事業を実施しています。

(1) 発掘調査事業

県内には数多くの遺跡があり、国及び県の公共事業を行うときには、事業地内に所在する遺跡の取扱いについて、県教育委員会と事業者との間で話し合いがなされます。遺跡は壊されるとふたたび元へ戻すことができませんので、できるだけそのままに保存することを原則としていますが、やむを得ない場合は、当文化財センターが発掘調査を行って、その内容を整理して、発掘調査報告書としてとりまとめています。

(2) 研究事業

発掘調査された遺跡・遺物から本県の歴史を明らかにするための研究を行い、その成果をとりまとめた『研究紀要』や、わかりやすく各時代の歴史を説明した『房総考古学ライブラリー』を発行しています。

また、県内の遺跡から出土した金属器や木器を腐食から守るため、それらの遺物保存処理も行っています。

(3) 文化財普及事業

一般県民の皆さまを対象に、埋蔵文化財に親しみをもていただくために、発掘調査中の遺跡で現地説明会を開催したり、出土遺物の公開展を開催したりしています。

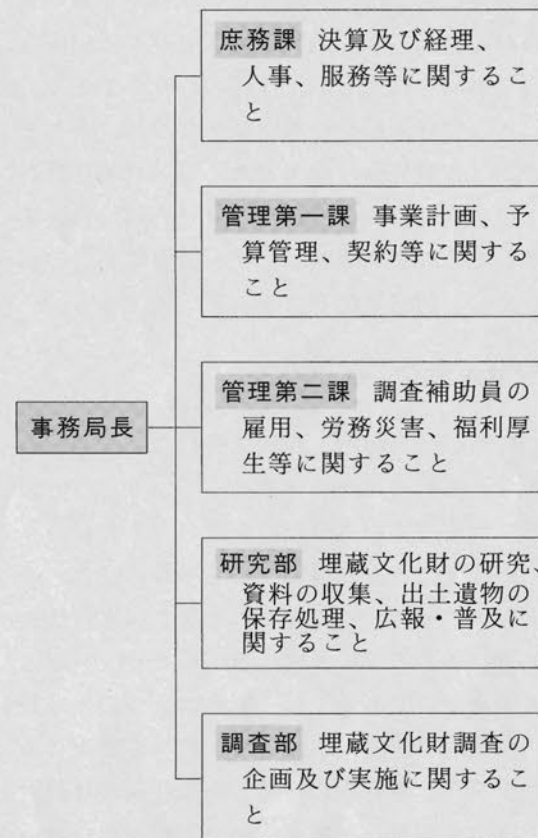
(4) 研修事業

県内市町村教育委員会及び地区文化財センターの方々を対象にして、埋蔵文化財に関する知識と技術を高めていただくための研修会を実施しています。

2. 組織はどのようなになっているか

当文化財センターは、千葉県教育委員会によって設立された財団法人であり、昭和49年11月1日に設立され、千葉県教育庁内に本部をおきました。同年12月に千葉県亥鼻1丁目3番13号に本部を移転して本格的な活動を開始しました。これ以降、本部は、昭和60年4月に千葉市葛城2丁目10番1号、平成2年6月に四街道市鹿渡無番地（現在809-2）に移転して、現在にいたっています。

役員は、会長（千葉県知事）、理事長（千葉県教育委員会教育長）、副理事長、専務理事、常務理事、理事、監事によって構成されており、事務局の組織（86名）は次のとおりとなっています。



3. 本部施設はどのようなになっているか

本館は4階建て、別館は2階建てです。当文化財センターでは本館の1～3階と、別館の1階を使用しています。

本館

1階の大きな玄関を入ると、左側に庶務課の受付が見えます。当文化財センターにご用の方はここで受付していただきます。玄関を上がって廊下を左側に行くと、手前に先ほどの庶務課の室があり、その先に管理課、役員室と並び、廊下の突き当たりは図書室です。ここには県内外の発掘調査報告書を中心に、考古学、古代史に関する約25,000冊の図書が収蔵されています。

2階へ上がると、正面が会議室です。その前の廊下を右側に進むと調査部の室があります。全県下にある各現地事務所には、ここから指示が出ます。さらに廊下を進むと展示室があります。ここでは、まだ報告書で発表されていない考古学上の貴重な遺物を展示したり、職員が調査・研究するうえで必要な資料を保管しています。そのとなりは研究部の室です。ここでは、『研究紀要』『房総考古学ライブラリー』『研究連絡誌』の編集・刊行を行ったり、調査で得られたデータの保管・活用方法の研究と実践、資料の貸出しなどを行っています。廊下の突き当たりは第1収蔵庫です。ここには、おもに図面や写真の資料を保管しています。会議室の前の廊下を右側に進むと、その先は別館2階につながっています。

3階は、調査部の四街道事務所になっていて、発掘調査現場に行く職員の基点になっているほか、多数の調査補助員が、土器の接合・復元及び図面の作成など、報告書刊行へ向け



本部・四街道事務所

ての整理作業を行っています。

別館

1階の玄関を入って右側に行くと、研究部の保存処理関係の各室があります。ここでは発掘調査で出土した、金属器、木器などが錆びたり、腐ったりしてその資料的価値を失わないよう、化学的処理によって保存する作業を行っています。また、X線写真撮影装置や赤外線テレビシステムなども置かれていて、科学的な考古資料調査もできるようになっています。

図書室、展示室については、閲覧や見学は自由にできるようになっておりますが、その際には、事前にご連絡くださるようお願いいたします。

発掘調査速報

住居から出土した巫女の鏡？

市原市草刈遺跡K区の竪穴住居から、直径5.4cmの小さな鏡が出土しました。背面の文様を見ると、平たい縁に続いて3重の区画があります。まず、斜めにめぐる櫛歯文帯、次に2本の線で区画された幅約6mmの帯、そして中央に紐があります。この真ん中の帯の所々に正体不明の凹凸が見えます。これとよく似た鏡には、巫女を意味する文字をもつものがあります。この鏡には、吊りさげるための小孔があげられていますので、巫女が身につけていたのかもしれません。（白井久美子）



巫女の鏡？

大木台第2号墳の埴輪列

印旛沼を見おろす1400年ほど前の古墳から、着飾った女人や馬の埴輪がズラリと立ち並んでみつかりました。いままでは、古墳の上にもどのように埴輪を立てたかについては、あまりよくわかっていないため、貴重な資料として注目されています。お墓にいろいろな形の埴輪を立て、古代の人々がどのような気持ちを込めて亡き人をあの世に送ったのか。保存状況の良いこの古墳は多くのことを私たちに語ってくれることでしょう。（糸原 清）



埴輪列検出状況

菅生遺跡の調査始まる

木更津市の小櫃川べりにある菅生遺跡はかつて多量の木製農耕具を出土したことで、奈良県唐古遺跡・静岡県登呂遺跡とともに日本の三大農耕遺跡として著名な遺跡です。今回はその南西部を調査する予定であり、弥生時代の集落のひろがりや古墳時代の大溝の続きなど、多くの成果が期待されます。写真は遺跡を西から見たもので、現在は水田になっていますが、皆さまも発掘調査で過去の菅生をのぞいて見ませんか。（高梨俊夫）



発掘はじまる菅生遺跡

埋蔵文化財アラカルト

シリーズ 住まいの移り変わり

第1回 旧石器〔先土器〕時代

約1万年以上前の旧石器時代の住まいのようすは、実のところそれほどよくはわかっていません。日本で断片的にわかっている資料や外国で発見されている住まいから、住まいのようすを復原してみましょう。

住まいの痕跡は、全国的にみても数例しか発見されていません。浅い皿状の掘り込みや穴が数例発見されていますが、おそらく、地表に深く穴を掘ることはまれで、地表面に細い柱を立て、軽くて簡単な上屋をつくったと考えられます。テントのような住まいを考えてよいかもしれません。

住まいは、どのような材料でつくられていたのでしょうか。骨組みには木、象や鹿などの動物の骨や牙が、屋根には獣皮や樹皮、草

などが用いられたと思われます。

炉と思われるものとして焼けた土が発見されています。調理・暖房・照明施設である炉はどこにあったのでしょうか。いまのところ住まいの内か外かは、はっきりとはわかっていませんが、いずれにしても住まいの近くにあったと思われます。（新田浩三）

まちがい探し（まちがいは1か所。次号に回答）



旧石器時代の生活のようす（絵 大鷹依子）

Q & A

1. 埴輪って何ですか？

埴土（粘土のこと）でつくった円い筒という意味です。古墳を聖域として区画したり、その偉大さを誇示したりするために、古墳の頂上や周囲を取り巻くように設置されました。

古墳の規模の変化につれて、円筒埴輪だけでなく、写実的な大きささまざまな種類の埴輪がたくさんつくられました。埴輪からは、当時の葬送儀礼のようすや人々の生活、考え方などをうかがい知ることができます。

2. 埴輪にはどんなものがありますか？

円筒埴輪と形象埴輪があり、形象には人物・動物・器財・家形などがあります。人物では武人・農夫・巫女などがあり、動物には

犬・馬・牛・鹿・猪・猿・鶏・鷹などさまざまな鳥獣がみられます。器財には武器や武器、儀式用道具類、食事用具、舟など種類も豊富です。家形には住居や倉庫を表現したものがああります。

3. どうすれば発掘の見学ができますか？

遺跡の発掘調査を行っているのは、県及び各郡市単位にある地区文化財センターや市町村教育委員会です。したがって、発掘現場の見学を希望する場合は、地元教育委員会が調査を行っている文化財センターに問い合わせることが必要です。また、遺跡の現地説明会や博物館、公民館主催の遺跡見学会もあります。開催日時などについては県や市町村の広報紙や新聞案内欄等に掲載されますので、日ごろから注意してご覧ください。（斉藤 茂）

埋蔵文化財普及事業案内

当文化財センターで予定されている主な事業は次のとおりですので、ふるってご参加ください。

【千葉県文化財センター出土遺物公開展】

平成4年11月22日(日)から12月6日(日)まで、当文化財センターで発掘した最新の資料の公開を本部展示室にて行います。詳細については調査部までお問い合わせください。

【おゆみ野地区椎名崎古墳群現地説明会】

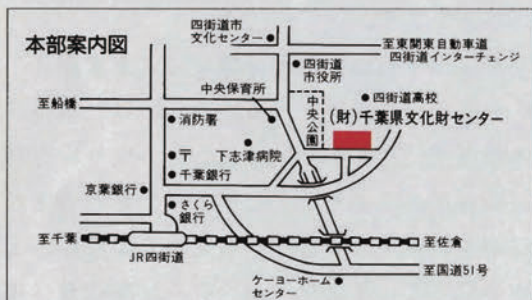
平成4年10月25日(日)に現地で開催します。千葉事務所では、いままでに出土した遺物も展示する予定です。詳細は千葉事務所までお問い合わせください。

【千葉県遺跡調査研究発表会】

平成5年1月31日(日)に佐原市民会館で、県内で発掘調査された主な遺跡の調査成果を発表します。詳細は香取郡市文化財センター調査課(0478-83-3531)にお問い合わせください。

千葉県文化財センターの主な施設案内

本部・四街道事務所 当文化財センターの中核となる建物で事務機能が集中しています。なお、3階は四街道市を中心とした地域の埋蔵文化財調査を担当する現地事務所となっています。



千葉事務所 千葉市おゆみ野地区・市原市千原台地区の埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、JR外房線鎌取駅より東へ徒歩約20分。

所在地 千葉市緑区おゆみ野1-35-1
(☎ 043-292-2407)

印西事務所 千葉ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、JR成田線木下駅より京成バス津田沼行き割野下車徒歩1分。

所在地 印旛郡印西町大森字割野749
(☎ 0476-46-4319)

成田事務所 成田市周辺及び香取郡内の埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、京成成田駅より吉岡経由佐原駅行バス葉草園前下車徒歩1分。

所在地 成田市十余三字円妙寺30-52
(☎ 0476-22-5106)

市原事務所 東関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、内房線五井駅より養老川右岸沿いの道を上流に車で約10分。

所在地 市原市村上1,879
(☎ 0436-26-7929)

木更津事務所 県南部の埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、久留里線東清川駅より国道409号バイパスを清見台方面へ徒歩15分。

所在地 木更津市菅生405
(☎ 0438-98-2317)

お知らせ

当文化財センターでは、発掘調査をお手伝いいただく調査補助員を募集しています。ご希望の方は最寄りの現地事務所にお問い合わせください。

編集後記

待望の広報紙を刊行することができました。本紙を通じて、県民の皆さまと“心のキャッチボール”を行うことによって、埋蔵文化財を少しでも身近に感じていただければ幸いです。ご意見があれば、当文化財センターまでお寄せください。(横山 仁)